

## 宮崎県社会教育委員連絡協議会 会報 [第7号]

平成21年11月発行

社会教育委員の皆様へ

宮崎県社会教育委員連絡協議会副会長 池田 昭

月日の流れは早いもので、霜月も終わろうしており、冬支度に何かと心せられる季節となりました。

皆さん、時代は大きな転換期を迎え、地域社会から地球規模へ、さらに教育基本法や社会教育法の改正をうけ、社会の変化に対応した「社会教育のあるべき姿」について論議がなされ、その実現に向けた方策等を学ぶことが求められています。

そのような中であって、平成21年度の本協議会の内規により副会長を引き受けることになりました。

どうぞ、社会の変化に対応した「新しい社会教育の役割」、つまり「委員としてどうあるべきか」を求め、「自分から他者」へ、「参加から参画」へ、「共有から共生」へ転換していくことの大切さを受け止め、取組を進めていただきたいと思います。皆で、社会教育の根底であります「住民の幸せ」の実現のため、知恵を出し合っていこうではありませんか。

これから、寒さも強まり、年の瀬の声が聞かれる時節になります。皆さん、よいお年をお迎えください。



### 社会教育委員としての取組

(各地区代表より)

【宮崎地区】

宮崎地区会長 池田 昭

【研究協議会の様子】

今回は、社会教育委員として宮崎地区の社会教育連絡協議会の取組状況を報告させていただきます。

宮崎地区は、宮崎市と清武町、国富町、綾町の1市3町から構成され、現会員は、34名ですが、平成22年度以降は、合併の関係で30名となる予定です。

平成21年度の総会をうけ、教育基本法や社会教育法の改正により、委員の職務の重大さはもちろんであります。新しい「人づくり・集団づくり・地域づくり・ふるさとづくり」にむかって三者の連携と協力の提言のもとに、今、地域社会教育が求められております「住民の幸せ」のために、その取組を進めていくことが課題と考えております。

したがって、社会教育では、必要課題、一方生涯学習では、要求課題などを取り上げ、最終的には、この両方を融合させながら「できるものをできるとき」に実践していくことを本年度の方針としたところであります。

その内容として、講話、各市町でのテーマの取組、地区でのテーマ研究会、合併による研究の在り方、情報交換、調査研究を柱として、特に地域に焦点をあて、地域を変えていこうとする取組を進めております。



## 【南那珂地区】

南那珂地区会長 中島 淳祐

《全国社会教育研究大会に参加して》

10月29～30日に熊本市で開催された「全国社会教育研究大会」に日南市社会教育委員の一員として参加した。

出発日になり、急遽、臨時の市議会の開催により、参加予定だった課長ほか数名が参加できなくなり、代わって社会教育指導員の方々が参加することになった。



正午頃に会場の熊本市民ホールに到着し、間もなく開会。開会行事に引き続いて、熊本県知事の蒲島郁夫氏の基調講演が始まった。講演の中で、蒲島氏は生い立ちを話された。「いろいろな苦境を乗り越え、アメリカに留学し、帰国後にいくつかの大学で教授を務めた。その後、知事選の出馬要請を受け、5割以上の支持を受け当選した。知事職を懸命に務め上げた後は、小説家を目指したい。」「夢限りなく」という演題通りの講演に感銘した。

次の日の分科会は、「生涯学習部会」に参加した。話題提供者は、水俣市の勝目豊氏と小林市の大藪良一氏だった。帰りの車中では、特に小林おもしろ発見塾塾長の大藪氏の話になり、そのユニークな発想、方言丸出しのおしゃべり、手振り身振りの所作などの聴衆をグイグイ引っ張り込む魅力に、参加者の感想が集中した。「こんな社会教育の仕方もあるのだなあ」と全員が共感し、熊本市を後にした。

## 【都城北諸地区】

《都城市社会教育委員の状況報告》

都城市社会教育委員 川島博章

都城市では現在、生涯学習基本計画の改訂作業中です。これまで学習ボランティア指導者の登録認定制度や学習ネットワークシステムによる学習者の飛躍的な拡大、民間も含めた出前講座、市民の手による生涯学習情報誌の発行等、意欲的に取り組んできました。しかし、社会情勢の変化、市民の生活や意識の多様化、さらに一市四町の合併や行財政改革等、環境が大きく変化しており、基本計画にも新しい視点と事業の重点化が求められています。

その課題として、先ず生涯学習の推進について、行政と民間の役割分担・協働のあり方、学習ボランティアの拡充と学習成果の活用、地域社会への還元があります。次に社会教育分野の活性化です。青少年健全育成及び家庭教育については、家庭・学校・地域連携を基本とし、特に家庭教育の支援では地域における推進者・相談者の養成をあげています。団体活動の活性化については、市が進めている「協働のまちづくり」に取り組む中で、団体のあり方やリーダー育成、会員拡大を図ることができればと考えています。



最後に、公立公民館に関する問題ですが、公民館を改めてまちづくりの拠点としてコミュニティ活動の基礎づくりを担う社会教育という観点で整理する必要があると思われます。昭和四十年代に公立公民館が計画的に整備されて以来、施設の再整備の時期を迎えている今、市民にとっても大きな関心事です。

【西諸県地区】

高原町社会教育委員 境 和彦

《社会教育委員としての取り組み》

本年度は、社会教育委員の任期2年間の改選の年に当たり、7名の委員のうち3名の委員が新たに委嘱を受けた。

7名の委員は、町内4小学校区から委嘱され、それぞれの校区の主な行事や実情に精通した方々が委嘱されている。

特に、委員の役職を見ると、PTA関係者をはじめ、公民館団体、文化団体、婦人団体、青少年育成団体などの幅広い組織から委嘱されており、委員相互の連携と情報交換と社会教育委員活動にも好都合と思う。

今年度の西諸地区の研究主題は、「生涯学習の視点に立った豊かな地域づくりのための活動はどうあればよいか」であるが、高原町の生涯学習推進の基本は、「町民一人ひとりが豊かさゆとりを生活の中で実感し、多様な価値観を実現する機会を確保する地域社会を実現する」とあり、私達は、社会教育委員としての立場で取り組む体制作りのため、委員相互の意見交換の機会を数多く開催したい。



【西都・児湯地区】

新富町社会教育委員 久保兼年

《西諸県地区社会教育委員連絡協議会との研修会について》

10月20日（火）新富町中央公民館で、西諸県地区社会教育委員連絡協議会第2回研修会とが、西都・児湯地区との合同研修会として開催されました。合同研修会というものの、実態は新富町だけの対応となり、西諸県地区には不満足な研修会であったことでしょう。

西都・児湯地区は行事予定を見る限りにおいては、合同研修会は視察のみで、西諸県地区のように充実した研修会にはなっていないようです。

西諸県地区では、教育委員会からの諮問を受けての活動、教育委員との意見交換会等々、積極的に活動されており、当地区とのレベルの違いを認識した研修会でした。私が今年度の会長を引き受けた西都・児湯地区の本年度事業計画に、西諸県地区社教委連協との交流会というのが組み込まれていたが、その対応については何の議論もなく引き継いだようなことです。西諸県地区との差は何であろうかと考えると、それは、事務局の差であろうと思います。西諸県地区は教育事務所に事務局があり一貫した運営が出来ているが、一年ごとに各市町の持ち回り事務局の当地区では、継続性があまりありません。教育事務所に事務局をお願いするのが良いと思うのだが、教育事務所統合の話も出ており、どうすれば良いのか…。難しいことです。



【東臼杵地区】

東臼杵地区会長 柘植 健

《社会教育委員としての取り組み》

延岡市では、2カ年の任期ごとにテーマを設けて協議を行い、社会教育委員の意見書として成果をとりまとめ教育委員会に報告している。

平成17・18年度は、「子どもの育成について」をテーマに、子どもを取り巻く環境の変化に対応した健全育成のための取り組みについて協議し、これからの学校・家庭・地域が一体となった具体的な活動や地域づくり等のあり方について報告を行った。平成19・20年度は、「社会教育事業評価『家庭教育に関する事業について』」をテーマに、前回の報告を引き継ぎ、特に家庭教育に焦点を絞って、教育委員会で実施している事業を評価する形で協議し、家庭の教育力の向上及び家庭教育支援制度の充実や、学校・家庭・地域社会が連携し一体となった子育て支援の推進について報告を行った。



今年度からは、これまでの取り組みを基本に「学校・家庭・地域社会が一体となった教育の推進について～社会教育の視点に立った市民協働のあり方～」をテーマに、学校・家庭・地域社会のそれぞれの役割や、今後の社会教育のあり方などについてなど、有意義な意見報告ができるよう、委員一同熱心な協議を重ねている。今後も、社会教育委員として有用な活動ができるよう研鑽を積んでいきたい。

#### 【西白杵地区】

高千穂町社会教育委員 押方 勇夫

#### 《社会教育委員としての取組》

高千穂町社会教育委員は、年2回の会議を実施し、委員の資質の向上を図り社会教育の推進に努めています。

また、その他にも、毎年、うるおいと・やすらぎ・いきがいのある町づくりをめざし、町内各地域の特性を生かした個性豊かな生涯学習を推進するため、お互いの活動内容や学習成果の発表・作品の展示など町民あげて楽しむ催しとして、ボランティア団体と連携を図りながら「町民のつどい」を開催しています。

今年は11月7日（土）に高千穂町の武道館に於いて、意見発表やアトラクションの他に特別企画として、NHKの番組でバラエティー笑百科に出演されている弁護士の三瀬 顕さんを講師に迎えて「弁護士生活笑百科 ～ 笑顔で語る人権」と題して講話を計画しています。

今後も地域住民の意向を反映させながら魅力ある委員会にしていきたいと思っています。



## 第51回全国社会教育研究大会概況報告

(事務局)

10月29日（木）から30日（金）にかけて、熊本市で「第51回全国社会教育研究大会」が盛大に開催された。

全国から約1700名の参加者が集い、本県からも県内各地から75名の方々が参集して、全国の同志と交流を深めたところである。

本協議会会長の竹林国興氏は、全国社会教育委員連合総会（10：00～11：30）にも参加され、開会行事では主催者として登壇された。

また、西都市の小野昭氏が栄えある全国表彰を受賞された。誠にありがとうございます。

1日目(29日)の全体会は以下のとおりである。

- 1 アトラクション(12:20~12:40)
- 2 開会行事(12:45~13:45)
  - (1)国歌斉唱 (2)主催者あいさつ (3)祝辞
  - (4)歓迎のことば (5)表彰式

※ 本県からは、西都市 小野 昭 氏が受賞
- 3 基調講演
  - (1)演題 「夢限りなく」
  - (2)講師 熊本県知事 蒲島 郁夫氏(平20.4.16~)  
[プロフィール] 稲田村農業協同組合勤務 ネブラスカ大学農学部卒業  
ハーバード大学大学院修了 筑波大学社会工学系教授  
東京大学大学院法学政治学研究科教授
- 4 シンポジウム
  - (1)テーマ 「社会教育の新しい方向性と担い手の創造」
  - (2)コーディネーター 全国社会教育委員連合 会長 大橋 謙策
  - (3)シンポジスト 国立大学法人奈良女子大学理事・事務局長 馬場祐次朗  
福島県矢祭町教育委員会前教育長 高信由美子  
日本PTA全国協議会 顧問 蘇我 邦彦
- 5 全体会閉会行事

蒲島郁夫熊本県知事の基調講演のお話は、夢をあきらめずに追い続けることの大切さとバイタリティを実感したところである。まさに元気の出る講演であった。

4名によるシンポジウムは、主に「社会教育委員及び社会教育主事の本来の役割の自覚」が今後の社会教育活性化のためのキーワードであることが論議された。いつも論議されることであるが、当事者である我々関係者の自覚と変革が、何にも増して大切な条件であることを再確認したところである。

2日目(30日)は、以下のとおり5つの分科会が各会場で開催された。

- 1 第1分科会 生涯学習  
研究主題 学習機会の充実と学習成果を生かすための社会教育のあり方
- 2 第2分科会 家庭教育支援  
研究主題 家庭教育力の向上を図る社会教育のあり方
- 3 第3分科会 地域の教育力  
研究主題 地域全体で子どもを育てるための連携とネットワークのあり方
- 4 第4分科会 公民館  
研究主題 社会教育の中核施設としての公民館の役割
- 5 第5分科会 持続可能な社会  
研究主題 持続可能な社会の構築を図るための社会教育の役割

第1分科会「生涯学習」では、発表者として、小林市の「小林おもしろ発見塾」の塾長大藪良一氏が登壇され、元気で明るい地域づくりの取組をわかりやすく発表していた。参加者には大変好評で活気に満ちた分科会であった。

また、宮崎大学教育研究・地域連携センターの准教授高橋利行氏が助言者として登壇



され、本分科会をしっかりとまとめていただいた。【29日 基調講演 蒲島郁夫熊本県知事】

全国各地の先進的な取組を知ることができ、大変意義深い大会であった。

シンポジウムのテーマ「新しい社会教育の方向性と担い手の創造」においては、これまで本協議会でも議論してきた「社会教育の活性化の方策や後継者の育成」について多くの示唆を与えていただいたので、ぜひ今後の活動の参考にさせていただき、本県社会教育の振興を図っていきたい。

(文責 県生涯学習課 坂上)

【29日 シンポジウム】



【30日 第3分科会】



【事務局より】

### 平成21年度宮崎県社会教育委員研究大会・宮崎県公民館経営セミナーの開催について

平成21年11月20日に高鍋町中央公民館で約300名の出席のもと盛大に開催されました。

開会行事においては、本大会の主催者として県教育長、両会長から挨拶がなされ、本大会の意義が強調されました。また、県社会教育功労者表彰、県社会教育優良団体表彰、県地域文化功労者・団体表彰が行われました。本当におめでとうございます。

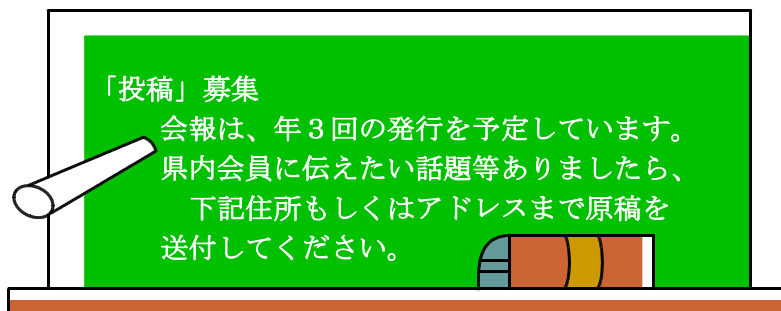
事例発表においては、木城町において、日頃から子ども会活動を通じて少年教育の充実に努めておられる萱嶋 了氏、講演では、社会教育の分野で全国的に活躍されている青山学院大学教授の鈴木 眞理氏の示唆に富むお話をいただきました。

本大会が、今後の各地域での活動に大いに生かされることと思います。



詳細については、3月発行の会報第8号で御紹介させていただきます。

～お知らせ～



- 平成22年度の文部科学省概算要求の概要等については、文部科学省のホームページで紹介されています。是非、生涯学習・社会教育の動きを御覧ください。
- 宮崎県社会教育委員研究大会・宮崎県公民館経営セミナーについての御意見やその他事務局への御要望等ありましたら下記まで御連絡ください。

事務局：宮崎県教育庁生涯学習課（担当書記：小嶋）  
住 所：〒880-8502 宮崎市橘通東1丁目9番10号  
TEL：0985-26-7245  
FAX：0985-26-7342  
E-mail：kojima-masafumi@pref.miyazaki.lg.jp

生涯学習、社会教育に関する情報が、県の生涯学習情報システム「SUN-NETみやざき」で御覧いただけます。インターネットで、是非、アクセスしてください。

<http://sun.pref.miyazaki.lg.jp/>

